

弘法さんかわら版

発行編集部

大塚耕平事務所

☎052-757-1955

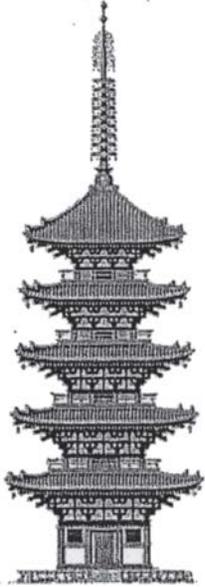
Kouhei@oh-kouhei.org

皆さん、こんにちは。新緑の五月。過ごしやすい季節ですね。最澄、空海後の仏教がテーマの今年のかかわら版。今月は**栄西の臨済宗**についてです。

★持律第一葉上房

鎌倉仏教のふたつの大きな流れである**浄土宗**と**禅宗**の開祖が、同じ時期、同じ地方で生を受けました。

美作(みまさか、岡山県北部)で生まれた**法然**(一一三三〜一二一二年)誕生八年後の**一一四一年**、**栄西は備中**(岡山県西部)吉備津(きびつ)神社の神官、**賀陽(かや)**貞遠の子として生まれました。父は仏教にも詳しく、その基礎を栄西に教育。その影響で十一歳の時に出家し、**安養寺**、**比叡山**で修行します。同時期、法然も比叡山で修業。二人は「**智慧第一法然房**、**持律第一葉上房**」と並び称され、やがてともに新しい宗派を興します。



一葉上房(栄西)と並び称され、やがてともに新しい宗派を興します。

★興禅護国論

一一六八年、二十七歳の栄西は、大陸の進んだ仏教を学ぶために**宋**に渡りました。そこで**禅**が盛んなことを知り、関心を抱きます。

明州では、日本から来ていた**重源**(一一二二〜二〇六年)と遭遇。重源は兵火で焼失した東大寺再建の勸進僧です。以後、一緒に宋を遊行します。

やがて栄西は多くの天台宗の文献などを日本に持ち帰り、天台座主の**明雲**に献上。その際、日本に初めて**茶**を伝えます。**一一八七年**、四十六歳になった栄西は再び渡宋。インドに行く目的は果たせませんでしたが、天台山の名僧**虚庵懐敵(こあんえしよ)**に師事。

密教と禅の教えは同じであるとの師の教えに接し、禅を本格的に学び、**臨済宗**の教えを究めます。**一一九一年**、帰国した栄西は禅を布教しようとしますが、旧仏教勢力からの弾圧に遭い、**興禅護国論**を執筆。



栄西頂相(聖福寺蔵)

ところが栄西は、京に対抗する新しい文化を求めていた鎌倉幕府の二代将軍**源頼家**やその母、**北条政子**の帰依を受けます。

その後、盾もあつて、**一一〇〇年**、初代将軍頼朝一周忌の導師を務め、北条政子建立の**寿福寺**を開山します。

一一〇二年、京に**建仁寺**を建立。以後は、京と鎌倉を往復しながら禅を布教します。

★五月 栄西・重源 臨済

一一〇六年、宋で知己を得て以来、親交を重ねていた重源が入寂。重源の後を受け、栄西は**東大寺大仏殿再建勸進僧**を務めます。

一一一四年には、喫茶養生記を書いて三代将軍実朝に献上。二日酔いがひどく、人生にも悩んでいた三代将軍実朝に、茶の効用と禅の教えを説いたと言われています。

一一一五年、栄西は寿福寺で入寂。七十四歳でした。入寂の地は鎌倉との説もありま

す。**吾妻鏡**には、結縁を願って鎌倉中の人々が集まり、源実朝の代理として**大江親広**が臨終に立ち会ったと記されています。

一二七九年、大陸では宋が元に滅ぼされます。多くの禅僧が戦火と蒙古の支配を逃れて来日。

来日僧の中には、**蘭溪道隆(らんけいどうりゅう)**、**無学祖元(むがくそげん)**、**一山一寧(いっさなんいちねい)**などの名僧が含まれており、こうした禅僧が栄西の教えを継いだことが、日本の禅宗や臨済宗の興隆につながりました。

★道元の曹洞宗

栄西が寿福寺を開山した**一一〇〇年**、臨済宗と並ぶ禅宗の双壁となる曹洞宗の開祖、道元が誕生。

来月は、栄西の孫弟子となる**道元の曹洞宗**についてお伝えします。乞ご期待。

